

# 生物(B)災害・化学(C)災害

## 【生物災害の特徴】

＜公衆の場所などで生物剤がテロリスト等により直接散布された場合＞

- ・現場に居合わせた多数の人が感染する可能性がある。
- ・一定の潜伏期間後に発症するために、現場での発症による多数傷病者の可能性は低いと思われる。
- ・感染した人が移動することにより、潜伏期間後に広範囲に渡って同時に多数の傷病者が発生する可能性がある。

＜人に知らされることなく散布された場合＞

- ・潜伏期間中に感染者が移動することにより、生物剤が散布されたと判明した時点で、既に感染者が広範囲に分散しており、被害が拡大する可能性がある。
- ・生物剤が散布されたことが判明しないまま、突然広範囲に渡って同時に多数の傷病者が発生する可能性がある。

## 【生物災害疾患の特徴】

- ・健康な人々の間に急速(時間や日の単位)に広がる。
- ・患者数が短期間に増加・減少する。
- ・発熱・呼吸器症状・消化器症状で受診する患者が急速に増加する。
- ・感染症は始まる時期やパターンに特徴がない。
- ・一般的に室内(特に濾過された空気や閉鎖系換気を行っている部屋)にいる人に頻度が低く、戸外にいる人に頻度が高い。
- ・患者が一カ所から多く発生する。
- ・急速に重篤化し、命の危険がある患者が多い。
- ・あまり見られない病気は生物テロの可能性が高い。

## 【化学テロによる災害の特徴】

- ・化学物質を取り扱わない場所など、通常毒劇物等の災害が発生し難い場所で発生し、災害発生の予測が困難である。
- ・施設関係者不在や物質に関する表示がないなど、原因物質に係る情報が少ないことから、物質の特定には検知資機材が必要となり、原因物質の特定に時間を要し、また困難である。
- ・使用される化学物質には、通常工業等で使用されている以外に、殺傷を目的として合成された物質があり、それらは非常に毒性が高く、少量で即効性があり、致死的である。
- ・人が多く集まる場所で発生する可能性があり、また、一度に多くの死傷者が発生する可能性が高い。
- ・発生場所が一カ所にとどまらず、同時多発的、また、広範囲に分散される可能性がある。

## 【化学テロ災害が疑われる場合】

- ・複数の傷病者が目・鼻・喉等の異常を訴えている場合。
- ・不特定多数の人が集まる場所で多数傷病者が発生している場合。
- ・傷病者発生場所付近での異臭・動植物の異常な死体・枯死が発生している場合。
- ・化学剤を散布した等について目撃証言があった場合。

## 生物(B)災害・化学(C)災害

【生物(B)災害・化学(C)災害における区域(ゾーニングの考え方)】

- ① **ホットゾーン** –原因物質に直接接触する可能性のある地域
  - ・生物剤・化学剤そのもの、生物剤・化学剤の収納容器等の残留物が目視で確認(粉末・液体等)できる場所および粉末・液体等による曝露危険がある付近一帯
  - ・建物の区画、構造および空調などの設備上、生物剤・化学剤が拡散したと思われる場所
  - ・人が倒れている、人がうずくまっている付近一帯
  - ・簡易検知器により反応が出る一帯
  - ・小動物等の死骸や枯木草が確認できる付近一帯
  - ・曝露者のものと思われる吐しゃ物、血液等がある付近一帯
- ② **ウォームゾーン** –直接的な危険性は少ないが、潜在的危険区域。主たる危険は二次汚染。
  - ・生物剤・化学剤が存在しない場所に汚染された人(物)が予め来ると予測され、汚染の管理ができている付近一帯
  - ・機能 – 曝露者集合場所・1次トリアージ・除染所
- ③ **コールドゾーン** –直接の危害が及ばない安全区域
  - ・消防警戒区域内でホットゾーンおよびウォームゾーン以外の区域
  - ・機能 – 2次トリアージ・救護所・現場指揮本部